

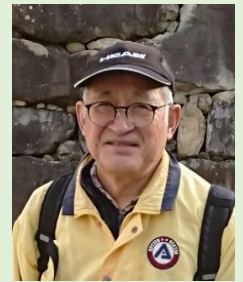
▼コラム

ウナギの生態と生命力

魚止め垂直壁を克服し、上流域まで生活圏を増やしている

出会いの島・豆島プロジェクト/事務局長
うなぎ持続可能プロジェクト SEFI/会員

出本 眞次



日本の河川は、多くのダムや人工的な堰、3面張りにより、ウナギの生息環境が悪化している。そこで、ウナギはどれぐらいの堰なら登れるのか調査することにした。堰を克服することでウナギは生息域を拡大できる。

ウナギの資源が近年減少している。しかしウナギの生命力は大変たくましい。大きな川では、シラスウナギの違法な乱獲が進んでいる。小さな川では、密漁しても沢山のシラスウナギが捕れないので儲からないので、人の手が入っていない川もある。ただそういう小さな川では、資源量はしれているので、ウナギの再生産にどれだけ寄与できるかは分からない。

兵庫県の河川で、ウナギ資源の調査確認をすると、ウナギはかなりの絶壁でも壁にへばりついて登って上流域で生息していることが分かった。



左の写真の堰が今回調べた 5m 位の堰でこの堰の上流までウナギの生息を確認、70cm ぐらいのウナギを採取確認した。右の堰はその上流のさらに高い堰でこの堰の上流ではウナギの生息は調査していない。

今回調査の河川では、1段目の落差 3m、2段目の落差 2.83m の連続する河川の流れを分断する堰が造られているが、そんな悪条件の河川でもその上流に、ウナギが生息するし、モクズガニ、ハゼ（水盤がある）等も同じようにその悪条件の壁を何とか登って生息している。当然アユなどの魚はそれ以上の上流域への進出は出来ない。